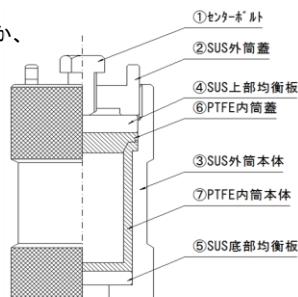


RDV- 回転型反応分解容器シリーズ 取扱説明書

この度は三愛科学株式会社製反応分解容器シリーズをお買い求め頂き誠にありがとうございます。
本製品は取り扱いを誤ると正しい検査結果を得られないばかりか、火傷などの傷を負うことがあり非常に危険です。
ご使用の際にはこの取扱説明書を携行し、取り扱い方法を充分ご理解の上でご使用下さい。
また本書を必ずお手元に保管下さいませようお願いします。



■使用方法

セット方法

試料の入った⑦と各部品を右図のように設置して行きます。
②は手で軽く止まるまでねじ込めば結構です。
※工具は使用しません。
①は④に当たるまで手でねじ込みます。

締め付け方法

③の底部をバイス(別売)に固定しレンチ(別売)で締め付けを開始します。

●めがねレンチ(別売)の場合

- ⑥⑦の初回使用時: 徐々にトルクがキツくなりレンチが止まるまで①を締め付けます。その後、角度10度ぐらいまでの間で短く増し締めして下さい。
※未使用の⑥⑦間には隙間が設けてあり、使用を繰り返す毎に密着し内圧を保持します。
- 2回目以降: 急にトルクが立ち上がるのを感じるまで①を締め付けます。
それ以上レンチが動かなければ締め付け完了です。
※過度の締め付けは製品寿命の低下を招きます。

●トルクレンチ(別売)の場合

- ⑥⑦の初回使用時: 締め付けトルク値 RDV-25→36N.m / RDV-50→38N.m / RDV-100,-250→40N.m

- 2回目以降: 締め付けトルク値 全機種→18~22N.m

RDV-250は外筒本体側面の穴にピンレンチ#70(別売)を補助工具として使用すると締め付けがしやすくなります。

開封方法

③の底部をバイスで固定し、レンチで①を緩めてから②を外して下さい。


※保護メガネ、耐熱・耐酸手袋を必ず着用して下さい。

※容器温度が充分下がっていることを確認してから開封作業を行って下さい。

※開封はドラフトチャンバー、グローブボックス等で行い、万一のガス噴出に充分備えて下さい。

※内圧が残っている場合は試料が吹出す危険があります。

■注意・警告・厳守事項(破裂、火傷の恐れ有り!)

容器内の異常な圧力上昇は容器の破裂や酸の噴出を引き起こし、 **重大な事故につながる恐れがあります!**

●最高使用温度230℃を厳守してください。

最高使用圧力 RDV-25/50/100:15MPa RDV-250:10MPa

●試料は乾燥重量で500mg程度に留めて下さい。※試料、酸共に少量から試みて下さい。

●本容器は有機物の反応・分解には特に注意が必要です。

有機物を含む試料を取り扱う場合は、必ず予備分解してから行って下さい。

●反応ガスが多量に発生すると予測される実験も、必ず予備分解を行って下さい。

予備分解: 換気の良い場所で予め試料と酸を解放下で反応させ、脱ガスまたは灰化させる。

●熱風循環式オープンで本容器を加熱する場合、熱風吹き出し口付近に置かないで下さい。

●何らかの原因で本容器から漏れ出た試料に引火する恐れがあります。

加熱には防爆型機器の使用をお勧めします。

●過塩素酸の使用は控えるか、極少量に留めて下さい。

●火薬類など爆発性試料は絶対に入れないで下さい。

●加熱開始時は周囲に注意を促して下さい。

●開封は容器温度が充分下がってから行って下さい。

●容器温度が下がっている場合でも内圧が残っており、開封時にガスが噴出する恐れがあります。

保護メガネ、耐熱・耐酸手袋を必ず着用し、換気の良い場所で行って下さい。

●開封はドラフトチャンバー、グローブボックス等で行い、万一のガス噴出に充分備えて下さい。

●SUS部品の先端部は鋭くなっています。切傷等に充分ご注意ください。

●無断で修理、改造をしないで下さい。

●PTFE内筒容器は消耗品です。蓋と本体の密着面に変形、傷などが生じると加熱時に内容物が漏れ出る可能性があります。その場合は速やかに新品とお取り替え下さい。

●三愛科学株式会社製以外の部品は使用しないで下さい。

●万が一、SUS外筒又はSUS部品が膨張による変形、あるいは亀裂などの異常を生じた場合は無理に開封せず、弊社までご一報ください。

 **三愛科学株式会社**

〒462-0034 愛知県名古屋市中区天道町5-5-3

TEL 052-915-2621 FAX 052-915-2622

info@sanai-kagaku.co.jp

<http://www.sanai-kagaku.co.jp>

2020/2改訂